

# 在宅医療・介護現場における情報共有システムの提案

大岩 隼<sup>†</sup> 矢島 敬士<sup>†</sup>

<sup>†</sup>東京電機大学

## 1 はじめに

近年、日本は諸外国に例をみないスピードで高齢化が進行しており、65歳以上の人口は、現在3,000万人を超えており（国民の約4人に1人）2042年の約3,900万人でピークを迎え、その後も75歳以上の人口割合は増加し続けることが予想されている。[1]

このような超高齢社会の中、在宅医療・介護現場におけるニーズが急激に増してきており厚生労働省においては、2025年を目途に、地域の包括的な支援・サービス提供体制（地域包括ケアシステム）の構築を推進していることもあり高齢者に関する情報を高齢者の関係者（医師、ケアマネジャー、ヘルパーなど）で共有することが重要視されてきている。地域包括ケアシステムの実現には保健、医療、福祉における密な連携が鍵となっており、従来の連絡ノートにおける情報共有では情報の共有が不十分であると考えられる。本稿では、在宅医療・介護現場など多職種に亘るチームで高齢者に関する情報を共有することにより、より良いサービスの提供を可能にする情報共有システムの提案をおこなう。

## 2 地域包括ケアシステム実現に向けて

地域包括ケアシステムの実現に向けて「保健」「医療」「福祉」の密な連携が重要となってきた。

その中でも病院における医療が大きく幅を利かせていた部分を保健や福祉の部分で支えることが必要になっている。[2]

医療の目標の変化として、本来は治療を目標としていた部分を高齢者のQOL(Quality of Life)を目標の変化とすることがこれからの地域包括ケアシステムの実現には不可欠となると考えられる。

## 3 問題点

現状の在宅医療・介護現場における問題点として以下の2点が挙げられる。

- ① 情報共有  
在宅医療・介護において、情報共有のツールとしては訪問連絡ノート、FAXなどの紙媒体が主流であるために多職種間でのリアルタイムでの情報共有が困難である。
- ② 情報過多  
在宅医療・介護において情報共有することにより情報が溢れることが予想される。その為に必要な情報を必要なタイミングで必要な分量提供する必要がある。

## 4 医療・介護現場における現状の情報共有



図1 訪問連絡ノート

医療・介護現場における現状の情報共有の主流の方法としては、訪問連絡ノートによる情報共有である。

しかしながら、訪問連絡ノートにおける情報共有には以下のような問題点がある。

- 高齢者宅でしか閲覧ができない
- 記録の二度手間になっている
- 重要な情報が何か分かりにくい
- リアルタイム性がない
- ノートの数が多くなるとどれが最新版か分からなくなる

## 5 提案手法

- ① 電子連絡帳による情報共有  
従来の訪問連絡ノートに手書きでおこなっ

「Proposal of the information sharing system in home care and home health care field」

Hayato Oiwa<sup>†</sup>, and Hiroshi Yajima<sup>†</sup>

<sup>†</sup> Tokyo Denki University

ていた記録作業をタブレット端末による電子連絡帳への記録へ移行し情報の共有をおこなう。

② 関心条件の設定

電子連絡帳に記入された情報に、関心条件 COI (Conditions of Interest) を設定することにより、必要な情報を必要なタイミング必要な分量だけ情報提供をおこなう。

6 チームによる情報共有

先にも挙げたように、地域包括ケアシステムの実現には高齢者に関わるチームの密な連携が鍵となっており、ここでは以下のようなチームによる情報の流れで情報共有をおこなうことを想定する。

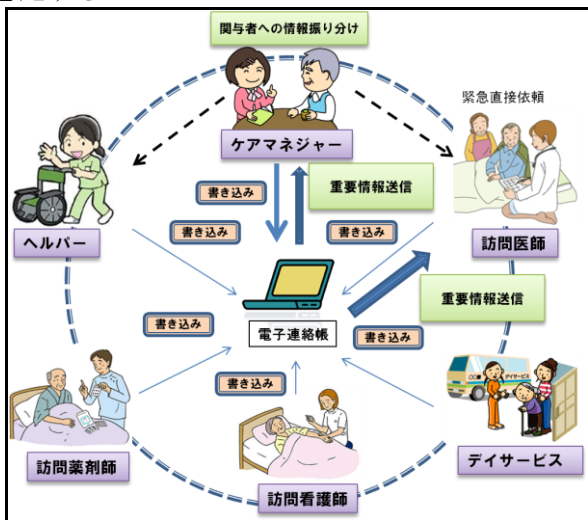


図2 チームによる情報共有の流れ

7 電子連絡帳による情報共有

電子連絡帳における情報共有にはタブレット端末を使用することを想定しており、以下のような画面例を想定する。



図3 電子連絡帳画面例

8 関心条件の設定

電子連絡帳に記入された情報に対して関心条件を設定することにより情報過多の問題を解決するだけでなく、密な情報共有をおこなうことを可能とする。

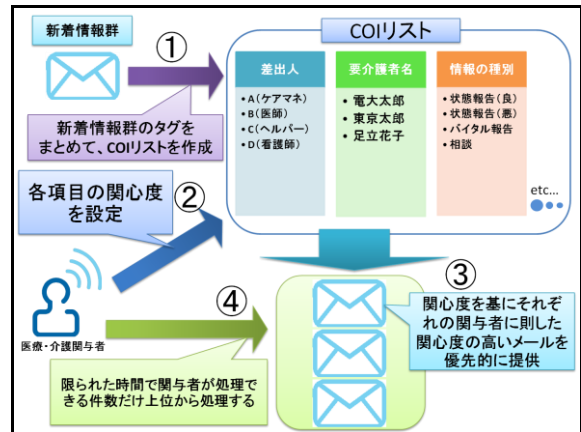


図3 COIの流れ

9 今後の課題

- ① 情報共有システムの開発  
電子連絡帳にて実装する、情報共有システムを高齢者のそれぞれの関与者にヒアリングを行い情報共有システムの開発をおこなう。
- ② 関心条件 COI の設定  
それぞれの関与者がどのような情報に関心があり、どのような見方をしているかを調査し、COIリストの設定をおこなう。
- ③ 記入の簡易化  
介護関係の方は、高齢の方が多くタブレット端末による情報記入が困難なことが予測される為文字認識技術なども組み込む必要がある。

10 参考文献

[1] 地域包括ケアシステムの実現へ向けて  
[http://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/hukushi\\_kaigo/kaigo\\_koureisha/chiiki-houkatsu/](http://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/hukushi_kaigo/kaigo_koureisha/chiiki-houkatsu/)

[2] 在宅医療におけるチームケアの実践～効率化、情報連携、教育への ICT の活用～  
<http://ikss.net/enterprise/images/194.pdf>

[3] Frederick Hayes-Roth, "VALUED INFORMATION AT THE RIGHT TIME (VIRT): WHY LESS VOLUME IS MORE VALUE IN HASTILY FORMED NETWORKS,"